

高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南
町一丁目 30番 34号
大阪府立阿倍野高校
新 聞 部
編集責任 谷内宏光
発行責任 中村隆志

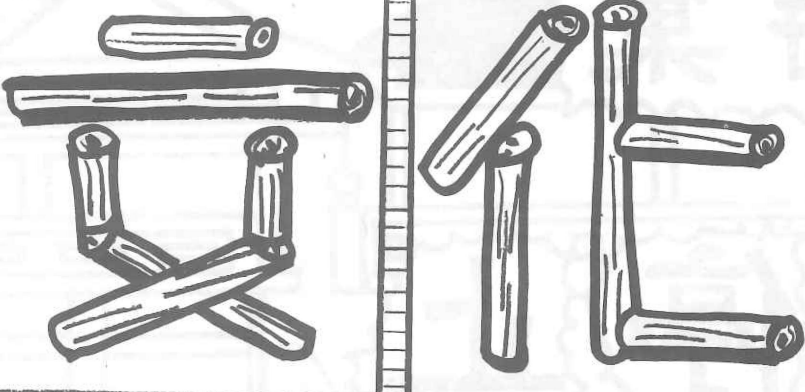
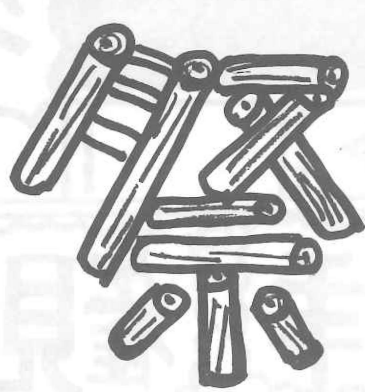
新入部員募集

部 説

繰りあがった文化祭

秋の自治会行事の一つである文化祭が、本日から行われる。二日目の夕方に行われる後夜祭も、「セカンド・フェスティバル」と改称し、例年通り行われる予定だ。この新生文化祭の成功を期待する。

第39回文化祭が、13・14日の二日間にわたって行われる。今年も例年とは異なり早目に開催される。我が阿倍野では、体育大会が文化祭よりも先に行われていたのだが、去年の体育大会は雨で延期となつてしまつた。そして延期になった日が連年、三年生の就職試験と重なつてしまい、全員参加ができなかつたのである。後日三年生から強い要望もあり、自治会がアンケートをとつた結果、改正についで3分の2以上の賛成が得られ、日時が全面的に改正されることになったのである。これが繰りあがった文化祭である。繰りあがったことにより準備期間が非常に短縮されてしまつたことになる。このことにより、文化祭の本来の方針である「クラスを大切にする」ということから外れてしまつたのではないだろうか。また、例年からいれ続けられているクラブに所属している者のクラス参加がなくなり、クラス参加という問題が深刻化する恐れがある。こういふことになってしまうと、難しく思つてしまつても、一人一人の文化祭に対する考え次第で、いとも簡単に解決することができるとは思ふ。文化祭実行委員会委員長の言葉を借りれば、「一人一人の苦勞の積み重ねがあつて初めて完成し、成功する」のである。



39

クラブ紹介

がってきた文化祭が、阿倍野高生全員でこの一年間築き上げてきた文化祭が、大成功を納めることを期待するだけである。

何はともあれ、本日より二日間開催される文化祭を大いにenjoyしようではないか。

☆舞台関係クラブ
今年も三年生が忙しかつて文化祭にでれなかつた。来年は後輩ががんばつてくれよう。よろしく!!

☆軽音楽部
今年度の文化祭は、人手不足でたいしたことはできなかつたが、音楽の楽しさや、すばらしさをわかつてもらえよう。精一杯頑張ります。

☆バスケットボール部
我がバスケットボール部は現在部員約五十人います。今年の大坂府吹奏楽コンクールは予選で金賞をもらいましたが残念ながら本選へは出場できませんでした。しかし来年、本選出場へ向けて一から出直してがんばっていきます。

☆音楽部
今年、音楽部は四人だけでがんばっているクラブです。でもなかなかの演奏だと思ひます。ぜひ聞きにきてください!! 一年生も、二年生もぜひ入部してください!!

☆展示関係クラブ
今年度の文化祭は、阿倍野高生全員でこの一年間築き上げてきた文化祭が、大成功を納めることを期待するだけである。

「文化祭に関心を」

聞いていた時でも隣の人の話をしたり、全く上の空という人が大半のようである。おそらく誰も悪気があつての事ではないと思うが、それだけ自治会というものの対して興味も関心もなく、疎遠なものである。受け取られていないのだからうしろ向きにしようという甘えのか、それか、その甘えか、かたてまはそうであるが、しかし本当にそうであるのか。少数の人だけがクラスをまかされた形になり、後の人はクラスが何をやるかさえ知らないという無関心な者も少なくないのではないだろうか。文化祭は無関心な者でも少なからず成功の満足感も感動も得られるはずがない。文化祭は無関心で終わらさなければならぬ。受け身から脱するには、自分自身から脱さねばならないだろう。そのためには各々が自分の存在と必要性をみだし、さなければならぬ。さすことが無関心をなすことにつながるのではない。今回の文化祭はスロウガンにかかげられているように、大空を目指して翔く事が、翔た友情が深まるなど、何かを得る事が大きな目的であると思う。他人によって与えられる作られたものではなく、自らの創作

今年度の文化祭は、人手不足でたいしたことはできなかつたが、音楽の楽しさや、すばらしさをわかつてもらえよう。精一杯頑張ります。

今年度の文化祭は、人手不足でたいしたことはできなかつたが、音楽の楽しさや、すばらしさをわかつてもらえよう。精一杯頑張ります。

今年度の文化祭は、人手不足でたいしたことはできなかつたが、音楽の楽しさや、すばらしさをわかつてもらえよう。精一杯頑張ります。

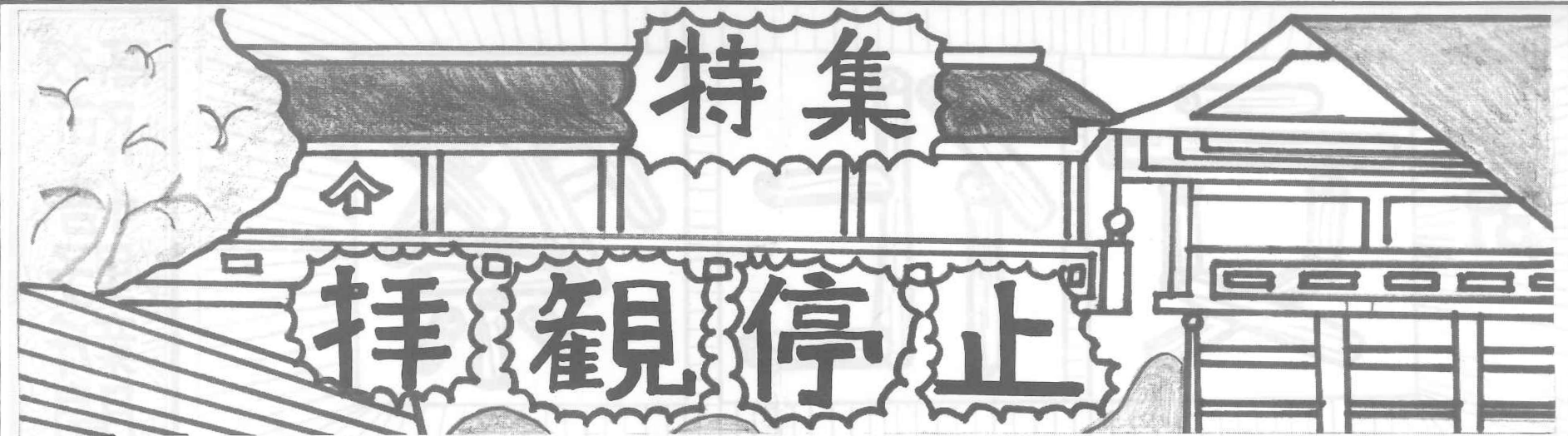
今年度の文化祭は、人手不足でたいしたことはできなかつたが、音楽の楽しさや、すばらしさをわかつてもらえよう。精一杯頑張ります。

今年度の文化祭は、人手不足でたいしたことはできなかつたが、音楽の楽しさや、すばらしさをわかつてもらえよう。精一杯頑張ります。



針と糸

文化祭・体育大会の季節がめぐつてきた。三年生の就職試験の関係で、今年から文化祭と体育大会が入れかわつて、早めに行なわれるようになり、三年生はどちらの行事も全員参加ができるようになった。けれども、そのぶん練習時間も短縮されて、例年のようにはいかないのではないだろうか。かたてまはそうであるが、しかし本当にそうであるのか。少数の人だけがクラスをまかされた形になり、後の人はクラスが何をやるかさえ知らないという無関心な者も少なくないのではないだろうか。文化祭は無関心な者でも少なからず成功の満足感も感動も得られるはずがない。文化祭は無関心で終わらさなければならぬ。受け身から脱するには、自分自身から脱さねばならないだろう。そのためには各々が自分の存在と必要性をみだし、さなければならぬ。さすことが無関心をなすことにつながるのではない。今回の文化祭はスロウガンにかかげられているように、大空を目指して翔く事が、翔た友情が深まるなど、何かを得る事が大きな目的であると思う。他人によって与えられる作られたものではなく、自らの創作



「古都税」の反対を

現地で聞く

八月一日我々新聞部員は京都に行きました。古都税反対の清水寺、金閣寺と京都市側の意見も取材に行ってきたが、取材に応じたのが清水寺だけなので、主に住民と観光客を取材しました。

京都市の古都保存協力税

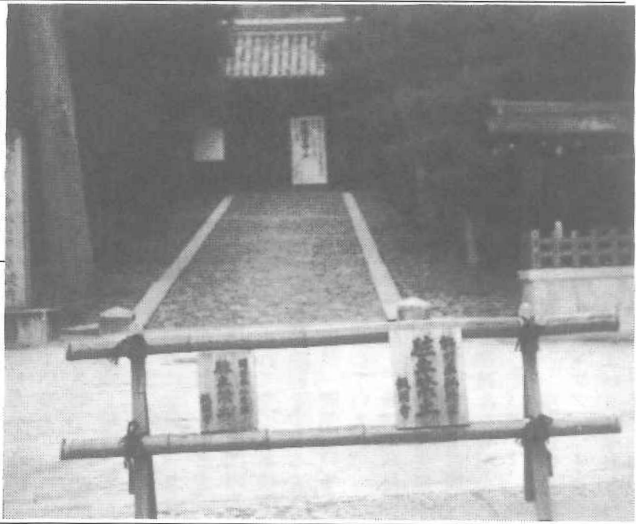
に反対して、金閣寺や銀閣寺、清水寺などの対象寺院が拝観停止を行ったことは、門前町のみやげ物店や観光業者に深刻な影響を与えている。金閣寺や銀閣寺の門前町は、静まり返って人が時々通りかき、拝観停止の看板をうらめしうに見ていく姿が目にとまる。そして、二・三の店が閉めていたその店の人が聞いてみると、寺の門が閉められてから、売上げが全くないという日が何日もあり、非常に生活が苦しいそうだ。7月には銀閣寺の門前町の業者が血判を公開し大文字おくり火を燃やすことをボイコットするなど、いろいろな問題がもたらがっているが、現在清水寺は志納金方式をとり、門前町はぎわわっている。では、なぜ寺側は古都保存協力税に反対するの。

昭和三十一年にこれと同じ型の税が京都市内に出来ていた。それは、時限税で寺の中で強い反対があったが京都市は寺を説きふせてこの税を昭和四十二年に実行した。その税は七年間だけ実行するといふものだが、京都市はその上この時限税をもう五年間続けてほしい、そのかわり今後いつかに延長はしないという覚書きというものを各寺院に手渡していた。ところが市は今回古都保存協力税という名目で前の同じ型の税を実行しようといふこと



「前の市長が、もうこの種の税は新設ならびに延長はしないという覚書きがあるではないか、これを市長が一方的に反古するとはどういうことだ」と抗議したが市はこれを無視して四月一日に税を実行するという強引な態度で寺側にせまってきたというわけである。そしてこの問題が今日まで続いているのである。これと同じケースの問題が岩手県の中尊寺であった。その時の解決方法としては、寺側は市に税として納めず寄付金として納めることによって解決している。ところが今回の問題は、京都市が寺側には、寄付金としてではなく、税金として納めてもらいたいという強引な態度でせまってきたそうだ。では寺に拝観する人をどのように見ているのであろうか。京都市の考えを寺側に見てみる。清水寺の住持は、像などを見物にきているのだから税金をとつてもかまわないという考えで、寺側の考えは、寺にくる人は参拝にくるものであつて、見物ではないという考えのくいちがいが、今回の税の原因なのではないだろうか。ぼくたちは、取材をすめていく中である老人の方は、「博物館や美術館にもすでに税金がかかっているのに寺などの宗教団体に税金をかけるのは不思議だ」という意見があり、京都市を批判する観光客は数少なかった。では、市民や観光客は、古都保存協力税をどう思っているのだろうか。

ぼくたちは、200人にアンケートをとる人々をどのように見ているのであろうか。京都市の考えを市側に見てみる。清水寺の住持は、像などを見物にきているのだから税金をとつてもかまわないという考えで、寺側の考えは、寺にくる人は参拝にくるものであつて、見物ではないという考えのくいちがいが、今回の税の原因なのではないだろうか。ぼくたちは、取材をすめていく中である老人の方は、「博物館や美術館にもすでに税金がかかっているのに寺などの宗教団体に税金をかけるのは不思議だ」という意見があり、京都市を批判する観光客は数少なかった。では、市民や観光客は、古都保存協力税をどう思っているのだろうか。



そしてこの理由は、市の財源がうろうろという答えが全体の84%以上をしめた。このアンケートの結果から、十四人の人は、仏様や先祖をまつてあるところで、決して観光に来ているのではない、という返答であつた。また、古都税をよいと考えている人は五十三名で全体の約27%にのぼった。

私は思いついて、授業中に生徒の顔を一人一人順に見て回ることがある。私の話していることを理解しているのか、興味をもっているのか、様々な表情・姿勢を眺めながら、諸君たちが本当に生きているのかから、ふり返りながら、自分の職業、配偶者、生き方について、漠然としたイメージを描くのは心療科的なものであるが、その選択が目前に迫ってきているや応なしに選べとされるのが現実であり、おとなしいところかときに苦痛をとるものもある。というの、選択の結果についてはその全責任を自分が負わなければならない

本当にやりたいことを

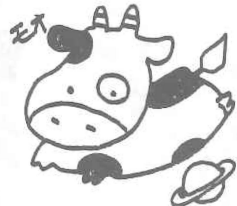
選択しよう

社会科 増田和一

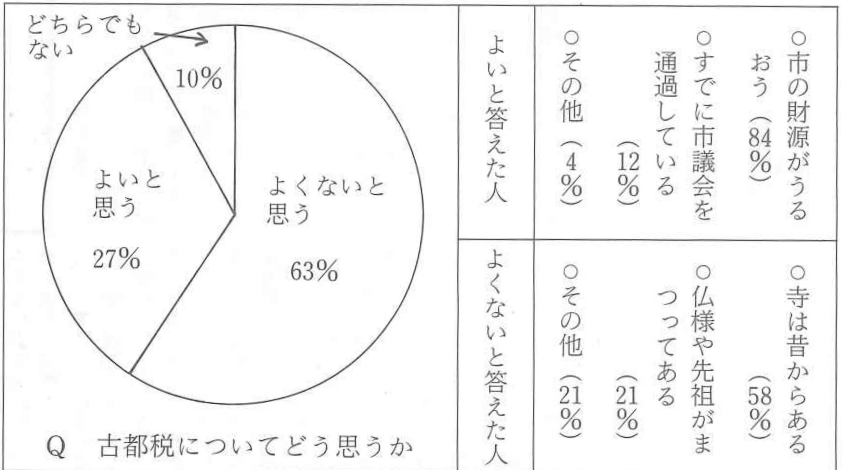
「きこと」と「幸福なこと」とは厳密に区別している。このところは3年の「倫理」で見た話すつもりだ。若い日には、自分の力や時間が無限であるかのように錯覚しているの、人間が人間といえるのは、「本当にやりたいこと」をやる

きこと「幸福なこと」とは厳密に区別している。このところは3年の「倫理」で見た話すつもりだ。若い日には、自分の力や時間が無限であるかのように錯覚しているの、人間が人間といえるのは、「本当にやりたいこと」をやる

きこと「幸福なこと」とは厳密に区別している。このところは3年の「倫理」で見た話すつもりだ。若い日には、自分の力や時間が無限であるかのように錯覚しているの、人間が人間といえるのは、「本当にやりたいこと」をやる



アンケート調査の結果



編集後記

新聞作りには、初めて取り組む八名の部員による第一回発行の新聞です。一面には、文化祭とクラブ紹介について掲載しました。取材には清水寺と京都市が応じてくれました。こうしてできた記事の一つ一つはまだ満足できるものではありませんが、一回目より二回目と発行を重ねることに良い新聞を作っていきたいと思ひます。新聞部までみなさんの声をお寄せ下さい。